

地方創生で活気のある町に 議会だより

かつら

No.85

2019.12.30



2. 〈総力特集〉 みんなで考えよう 勝浦病院の在り方
6. 〈Pick up!〉 平成 30 年度決算 すべて認定！
7. マラソン議会 (8 月～ 12 月)
8. 〈議員の目〉 北陸に学ぶ「官民一体」垣根のないコミュニティデザイン法
10. 一般質問
20. 地域に生きる ONE TEAM / 編集後記

CHAPTER01 病院の現状



新・勝浦病院鳥瞰図

**地域包括ケアシステムの拠点
市民の暮らしを守る勝浦病院**
勝浦病院は1950（昭和25）年度の開設以来、勝浦郡唯一の入院機能を持つ医療機関として、地域医療を担ってきた。

また、国民健康保険の診療施設として、通常の診療のみならず在宅患者への訪問診療や介護保険の通所・訪問リハビリテーションの提供、さらには特定健診事業の実施など、医療・介護・保健・福祉を継続的・一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の拠点として、地域住民の暮らしを守る活動を行っている。

**計画通りに進んでいない
病院改革プラン**
先述したとおり、平成28年9月に地域医療圏構想を踏まえた役割の明確化や経営の効率化、病院改革の必要性を説いた「国民健康保険勝浦病院改革プラン」を策定したが、平成30年度決算状況を踏まえると、改革プランどおりに経営改善が進んでいない状況が読み取れる。

**推進には経験に基づいた
マネジメントが必要では**
改革プランにあるように
①常勤医師を中心とした医療スタッフの確保が最重要課題であるが、常勤医師が4名の現状でも超過勤務（当直含む）が常態化している。就業環境の改善が見られなければ医師の確保も難しいのではないかと。さらに医療スタッフ用の住宅整備や「地域医療を考える会」の活動強化による広がりのある受け入れ体制構築を求めたい。

②患者サービスの向上に対しては、新施設の整備により医療や療養環境が充実し、患者満足度も高まると考える。一時的なサービス向上とならないように、診療体制の安定化や職員の接遇改善などに

おいて不断の努力が必要になる。

③職員の意識改革は「特に、看護職員など医療スタッフの病院経営に対する意識を醸成」とある。院内勉強会の開催や職員の外部研修会への参加はもちろん、スタッフそれぞれが自らの役割を認識し、尊敬し合える「ONE TEAM（ワンチーム）」で「行動」改革に取り組んでほしい。

④地域包括ケアシステムの推進において、「地域包括ケア病床」を導入したが、在宅復帰率の向上や平均在院日数の短縮は進んでいない。市民が可能な限り住み慣れた地域で生活できるように、安心して暮らせる環境整備とともに、「保健・医療・介護・福祉」の更なる連携強化が必要だ。

⑤経営改善につながる好循環の創出のため、上記①～④の実施等による好循環を期待しているが、多岐にわたる改革を推進するには経験に基づいたマネジメント（経営管理）が必要だ。

改革プランが「絵に書いた餅」にならないように、外部人材の登用や医療コンサルタントの活用などを早急に検討するべきだ。

みんなで考えよう
郡内唯一の入院機能を持つ病院

総力特集 勝浦病院の在り方



厚生労働省が9月26日、全国1455の公立病院や日赤などの公的病院のうち、診療実績が乏しく再編・統合の議論が必要と判断した424の病院名を公表した。

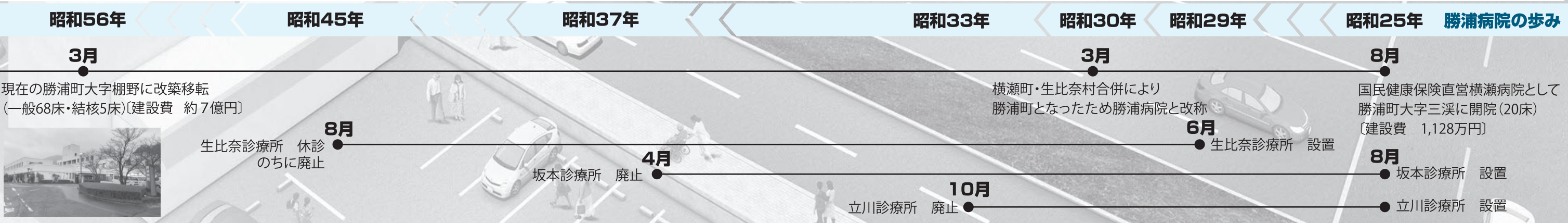
その中に国民健康保険勝浦病院（以下、勝浦病院という）も入っており、病院経営を不安視する声が議会議員に対しても多く寄せられた。新聞紙上において勝浦病院事務局長が3月に診療所への医師派遣などに取り組む「へき地医療拠点病院」の指定を県から受けている現状を踏まえ、「公表データは古く、現状を反映していない」「勝浦郡内で唯一、病床機能

を備え、地域医療になくてはならない病院だ」と強調し、厚生労働省の姿勢を批判している。

一方で令和4年4月の新病棟開院に向け、勝浦病院周辺では町道新設や造成工事に向けた事業が進んでいる。今一度、勝浦病院の経営状況を平成28年9月に策定された「国民健康保険勝浦病院改革プラン」をもとに検証し、関係者の意見を織り交ぜながら「勝浦病院」の在り方を住民の皆様と考えていきたい。

国民健康保険勝浦病院改革プラン

勝浦病院の実情と課題を踏まえ、策定された改革計画。



CHAPTER03 町を担う者として想う。

CHAPTER02 医療従事者として想う。



勝寿会施設長
岸敏子さん

医療福祉ゾーンのさらなる充実を

地域包括ケアシステムの推進に
取り組む中で、医療・介護の連携
等は大きな役割を担っており、病
院と当施設が隣接していること
で、他の市町村に無い大変恵まれ
た環境の下、高齢者や在宅サービ
ス・施設サービスを利用される皆
様の健康管理・医療相談等、地域
医療の拠点として、迅速に連携が
図られている。

在宅ケアでは、看取りに向けた
家族への支援体制の中で、訪問診
療を中心とした訪問看護、また、
訪問介護との連携が重要である
が、今年4月より、勝浦病院に地
域連携室が新たに設置され、相談
もしやすく、利用者の医療機関へ
の入院もスムーズになり大変助
かっている。

さらに病院が新しくなること
で、広くなったスペースを有効活
用し診察時間までの待ち時間等
に、健康相談や医療相談など健康



子育てサークル「はぐくみクラブ」

利用する機会をつくって

予防接種の予約時間や曜日
制限があるため、町外の医療機関
を選択することになる。小児科の
診療日が増えれば、利用する機会
も増えると思う。

小児科がない日や夜間・休日
に、子どもの受け入れが可能かど
うかわからず、無理をして町外の
病院に行くこともある。

また、薬だけでも貰おうと隣
接の薬局に行ったが、取り扱いが
なかった。

利用者に寄り添った施設整備・
情報発信が必要では。

はぐくみクラブ（ブログ）
https://blog.goo.ne.jp/hagukumi_2006



増進への取り組みが図られれば良
いと思われる。
また、新棟と当施設の距離が
少し離れることを心配される方も
いるが、当施設改築時に配慮でき
るよう関係機関と充分協議できれ
ばと思っている。



看護師
美馬友子議長

安全で良質な医療の提供を

町は高齢化や人口減少が進み、
地域を支える医療の重要性が高
く、新しい病院に期待も大きい。

しかし、経営収支も非常に厳し
い状況での病院改築であり、将来
の負担とならないためにも経営や
質の向上など改善対策の取り組み
を見せて欲しい。

職員一人一人がプロとしての自
覚を持ち、職種を問わず、どれほ
ど患者の立場になって医療サービ
スを行うことが出来るかが鍵であ
る。
地域住民の皆様が利用しやす



「勝浦の地域医療を
考える会」会長
石倉美枝子さん

気軽に立ち寄れる病院に

気軽に二次検診に伝えてくれる
病院であってほしい。また、予防
医学の立場から考えた情報発信・
広報活動などのサービスを提供し
てほしい。乳児健診もできる多目
的ルームが必要では。

町では愛育班や民生委員など、
いろんな活動があるが、独自に
活動している。医学・医療的な立
場から共同で知識を得る場が欲し
い。みんなが知恵を出し合うこと
で、より良い医療提供ができるし、
予防医療の知識も増える。



棚野区長
木原毅さん

住民から愛される施設に

病院改築事業開始当初から地元

く、安全で良質な医療の提供がで
きる病院にと期待しています。



歯科医
福井裕美さん

地域に「勝浦病院」の存在を しっかりとアピールを

長年、病院近くで開院していた
歯科医院を5月に閉めてからも、
グループホーム「あゆの里」等に
訪問歯科診療で伺う機会がある
が、隣接地に医療機関がある事得
られる安心感は計り知れないと
強く感じる。地域医療の中核施設
として将来にわたり安定した経営
が望まれる。

最近ではインターネットで病院評
価がされる時代である。新施設の
整備を進めると同時に選ばれた病
院をめざし、「情報発信」を積極
的に展開して欲しい。

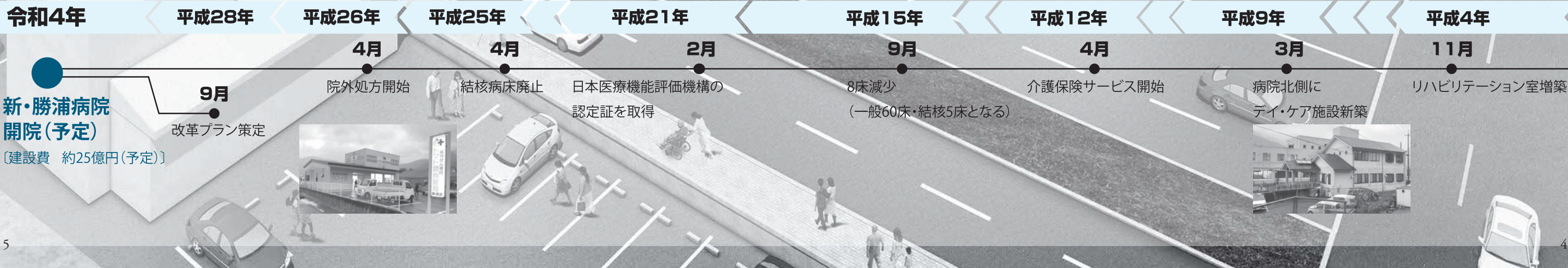
また、高齢化率が42%を上回り、
今後も高止まりすると予想されて
いる。将来の人口構成を見据え、
ソフト面の充実やきめ細かなサー
ビス提供をお願いしたい。

区長として、地域住民への理解や
協力体制が組めるように協議を重
ねてきた。

排水対策や災害時の一時避難所
としての利用等、要望事項につい
て多くの部分が配慮され安心して
いる。これから本格的に工事が始
まる。引き続き周辺住民への丁寧
な説明と共に、安全に工事が進む
ようお願いしたい。

地域住民に親しまれる、安心し
て過ごすことのできる療養環境を
目指して頑張ってほしい。一案と
して、総合案内（コンシェルジュ）
的なスタッフを配置し、来院する
全ての住民に笑顔で対応し、不安
を与えないことが大事だ。末永く
地域住民から愛される施設となる
よう期待している。

ご協力いただいた方にお
礼を申し上げます。
読者のみなさんも、病院
への期待や希望を持って
いただくでしょう。そうい
った想いをしっかりと反映
できるように、議会では地域
医療の皆となる「勝浦病院」
の前途を見守り、支え続け
ます。





Pick up!

平成30年度 決算審査 すべての会計決算を認定

9月10日、11日、12日にわたり、一般会計・7特別会計を審査しました。

審査は会計ごと、また担当課ごとに行われ、適正に支出されているか、不用額は妥当であるか、事業は計画通り実施され成果を上げているかなどについて、細かく質疑がなされました。



審査結果に基づき、
町長にこんなことを指摘しました。

1. 一般会計

- 未執行事業に対して、管理体制を強化すること。
- 職員のメンタルヘルスの対応強化とフォローアップ体制を構築すること。
- 時間外勤務に対する適切な指導監督に努めること。
- 防災無線システムの維持保守について、迅速かつ適切に実施すること。
- 地籍調査終了地区での現況地目に応じた課税を早急に実施すること。
- 町営住宅の使用料滞納に厳正に対処すること。
- 社会福祉協議会への支援は、担当課が責任をもって取り組むこと。

2. 勝浦病院

- 患者数の減少傾向が止まず、対策の結果が出ていない。

経営の観点から、改善に向けた体制づくり（専門家への委託など）を促進すること。

—— 救急救命業務（委託料 5729万円）で、救急搬送の重症度や搬送先の状況は。（美馬）

岡本参事兼総務防災課長

平成30年は294人を搬送し、軽〜中等症が3分の2近くを占め、重症は49件だった。搬送先としては勝浦病院が3割、日赤が約6割となっている。

—— 防災行政無線保守点検業務（委託料216万円）は、業者からの保守報告書で指摘された不良箇所が放置されていた。早急に見積もりをとり対応すべきでは。（仙才）

岡本参事

5000円以上の修理は有償になる。9月に報告書が出る段階で業者と協議し、優先順位をつけて対応したい。

年頭あいさつ



輝かしい新春を迎え
お慶び申し上げます

この新しい年がさらに良い年となりますように議会もワンチームとなり福祉の向上に努めてまいります。

議長 美馬友子

マラソン

8月・9月・10月・11月・12月

議 会



補正予算とは、当初予算成立後に発生した事由によって、予算通りに執行が困難になった時に、内容を変更するように組まれる予算。

選果場の設備投資

1814万円（全額県費）

J A東とくしま勝浦支所選果場の選果機を増設し、みかんの品質及び作業効率の向上。

災害対策 382万円

災害用備蓄トイレを34セットの購入（106万円）

危険ブロック塀の撤去と建て替え補助金（276万円）

インバウンド旅費 291万円

インバウンドPR旅費および情報発信環境整備

教員用PC更新 561万円

Windows7サポート終了に伴う各学校の教員用パソコン更新（23台アップグレード、買換え9台、周辺機器等）

災害復旧費 1億1233万円

6670万円（公共土木施設）

4563万円（農業施設）

9月議会

30年度にブロック塀撤去補助金が2件しか執行されなかった。事業の周知が足りないのは。（国清）

海川建設課長

避難路の沿道等、条件はあるが撤去が8万円、建て替えが26・6万円を上限に工事費の3分の2以内を補助する。すでに5件の相談を受けているが、今後も広報等での周知に努める。

10月議会

インバウンド視察にあたり、香港の情勢は。職員の安全確保は大丈夫か。（国清）

石木企画交流課長

十分な注意が必要だが渡航は可能だ。最新情報をチェックし安全対策をしっかりと行う。

新しい風 人事選

の新任に同意。

勝浦町教育長として市川公雄氏（与川内）の再任、教育委員として山守ひとみ氏（沼江）

「平石山鉱山への土砂の搬入中止を求める請願」10月30日受理。11月会議において継続審議とした。請願書提出者

今山区長 山村治

紹介議員

井出、花房、瀬戸、仙才



新教育委員 山守ひとみ氏



教育長 市川公雄氏



北陸に学ぶ「官民一体」の垣根のないコミュニティデザイン法

10月8日～10日、勝浦町議会で北陸を視察。今回の視察場所は恐竜まちづくり先進地である福井県勝山市、そして全国トップクラスの人口増加率を誇る富山県舟橋村。まったく違う方法でまちづくりをする両自治体に共通しているのは、官民一体による「垣根のないまちづくり」だった。

恐竜博物館に学ぶ、地域財産として「恐竜」を育てること

福井県立恐竜博物館は、勝山市役所の北3kmに位置。平成12年に開館。国立新美術館などを手がけた黒川紀章氏の設計によるもので、地上3階地下1階建、展示スペースは「恐竜の世界」「地球の科学」「生命の歴史」というゾーンがある。

博物館の先7kmには発掘現場があり、恐竜の発掘体験が可能。今年上半年の入館者数は65万人を上回った。

博士号をもつ研究員が15人おり、勝浦町の恐竜発掘においても、アドバイザーをいただいている。福井県は恐竜で地域起こし規模、意気込み、取組において世界屈指。一方で、勝浦町の



ティラノサウルスを見学

研修データ
福井県立恐竜博物館
 勝山市役所の北3kmに位置。平成12年開館。黒川紀章氏設計地上3階地下1階建て、敷地3万㎡、床面積1.5万㎡。博物館の先7kmに発掘現場があり、発掘体験ができる。整備費約140億円、職員52人（うち博士号をもつ研究員15人）

全国で最も小さい自治体に学ぶ、住民が「完成」させるまちづくり

舟橋村は、昭和55年当時の村長が8年かけて市街化調整区域の指定を解除し、村の強みを活かしてベッダタウンとして発展。この20年で人口は倍増し、現在3107人。富山大学のノウハウ提供を受け、平成19年11月に町民憲章を策定し、住民主導で村の現状や今後の課題を分析し、子育て環境の整備に力を入れるようになった。



子育てコミュニティ賃貸住宅「リラフォートふなはし」

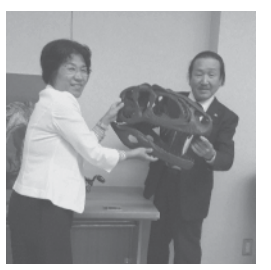
研修データ
富山県舟橋村
 富山平野のほぼ中央に位置。人口3,107人。面積は3.47km²。全国で最も小さい自治体。村内中央には富山地方鉄道が走り、富山市中心部へ約15分でアクセスできる。近年ではベッドタウンとして人口・世帯数とも大幅に増加。

キーワードは、「コミュニティ」であると考え、ハウスメーカーによるコミュニティ形成のための住宅「リラフォートふなはし」に取り組んでいる。住民から細かいアンケート調査で分析をして官民が一体となり舟橋村創生プロジェクト総合推進会議を立ち上げ、異業種間連携のプラットフォーム作りが始まった。長年にわたり問題意識をもってまちづくりに取り組み、常に「村をよくする」という意識を職員や議員が持っている様子が伺えた。

恐竜先進自治体に学ぶ、恐竜とまちづくり

福井県勝山市は昭和59年のワニの歯の化石発見に始まり、平成18年には、新種の恐竜（フクイラプトル）も発見された。勝山市は30年余りに渡る大規模な発掘調査の経験を活かし、「恐竜を活かしたまちづくり」から「観光の産業化」に向けての取り組みを推進している。

一方、勝浦町は平成6年にイグアノドン化石を発見、平成30年には国内最古級のボンベッドが発見され、本格的な発掘調査が開かれた。恐竜の発掘は、研究者（博士）を中心に、地元でチーム化することが必要で、併せて町づくりに取り



市役所に置かれた骨格標本

研修データ
福井県勝山市
 福井県の北東部、福井市の東方に位置。昭和63年に1億2000万年前の肉食恐竜の化石発見、平成12年に福井県立恐竜博物館が勝山市に開館。博物館・白山一平泉寺ジオパーク観光中心に市政展開。人口2.3万人、面積254km²。

- 富山市ガラス美術館**
<http://toyama-glass-art-museum.jp/>
- 岐阜県道の駅「パレットピアおのの」**
<https://pallettepia-ono.com/>
子育て支援ハウス「子育てはうすばすてる」
<http://www.pastel-kosodate.jp/>

ようこそ!! 勝浦町へ
 視察受入報告

- 8月20日 関東町村議長会（17名）
 - 10月24日 北海道北後志町村議会（議長5名・事務局長5名）
 - 10月29日 大分県豊後大野市議会（議員5名・議会事務局1名）
- 全国より視察研修に来町いただき、勝浦町議会の取り組みや今後の課題などを情報共有できました。今後も議会改革による機能強化や効率化、議会広報等による情報発信を高めていきたいと思っております。







町政の“ここ”が聞きたい！

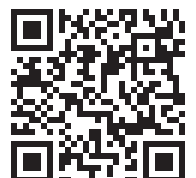
一般質問とは、議員個人が町長などの執行部に対して執行状況や将来に対する考え方などの報告や説明を求め、町が町民のために適切な町政運営を進めているかを確認する場。3月・7月・11月に行っている。

まちづくり	平石山鉱山問題 10月25日、四国経産局へ出向き申し入れ	井出	P.11
	防犯カメラ、道の駅への設置検討	瀬戸	P.12
	横瀬橋東側の狭あい部改良 来年度から要望活動をする	節	P.15
	かつうら創生事業 国の戦略を参考に方針を決める	節	P.15
	スポーツ推進協力隊について 具体的な要請があれば検討したい	花房	P.16
	金比羅堤防の防犯灯 今年度中に設置	麻植	P.17
	金比羅堤防の漏水箇所 直ちに危険な状態ではない	麻植	P.17
農業振興	みかんの出荷 今年は稔年で、前年比70%前後	相原	P.13
観光	恐竜による活性化 県などと連携しながら研究したい	国清	P.19
医療福祉	民生委員、地域特性等に配慮して配置している	井出	P.11
	オンデマンドバス 多様な側面から検討	瀬戸	P.12
	保健センター併設 将来的な検討課題にしたい	松田	P.18
	在宅育児応援クーポン事業 12月に開始に向け準備	松田	P.18
防災	災害弱者対策として「お助けマップ」作成を計画中	瀬戸	P.12
	全町一斉防災訓練 概ね順調に終わった	相原	P.13
	防災マップ・防災マニュアル 県などを参考に更新したい	相原	P.13
	防災無線の保守改善 優先順位をつけて取り組みたい	仙才	P.14
	正木ダム・勝浦川 洪水調節機能は、まだ余裕がある	花房	P.16
	訓練にも使える詳細なハザードマップを作成	麻植	P.17
	老朽化が進む集会所 修繕制度を見直したい	国清	P.19
その他	インターネット料金 今年度末までに方針決定	仙才	P.14
	早期離任の協力隊 事前イメージとの相違などが理由	花房	P.16

過去に発行した勝浦町議会広報や一般質問の全編映像は、公式ウェブサイトから閲覧できます。

そちらも合わせてご覧ください。

<http://www.town.katsuura.lg.jp/gikai/>



平石山鉦山、安全が担保されない 限り反対せざるを得ない

10月25日、四国経産局へ

出向き申し入れ

——「平石山鉦山への土砂の搬入中止を求める請願」の署名が2000名を越えて提出された。どのように受け止めているのか。

野上町長

町民の平石山鉦山問題に対する関心が大きいと受けとめている。

——7月議会以降、町はどのように対応したのか。

野上町長

10月25日に四国経済産業局へ出向き「このままでは、町としては反対せざるを得ない。町民の安全が担保されない限り、盛土の事業進行は、中止していただきたい」と、申し入れた。

——四国経済産業局への質問状が、10月21日に旧生比奈地区の区長さん連名で、提出されたが、町の認識は。

海川建設課長

下流域の影響が大きい地区ほど、関心が高く住民が心配をしている。

——千年に1度の防災対策が求められる今、県は過去10年の降雨確率で安全計算をしている。

海川課長

10年に1度の時間雨量（116ミリ）を超えた場合には、土砂の排水施設からあふれてしまう恐れはある。

——国の掘削指導監督が不十分だったため、残壁の崩落対策が必要になった。今後の工事にも不安がある。

野上町長

安全対策がきちんとできないのであれば、町はこの事業に反対せざるを得ない。

民生委員、地域特性等に配慮して配置している

——高齢化により生活困難者が増えている。人口比率に応じた適切な人員配置をするべき。

木村福祉課長

法律で定数が決められており、地域特性等に配慮して配置している。

——人口が多いところは、過重負担になっているのではないのか。民生委員の意見を尊重して、改革をしたらどうか。

野上町長

しっかりと討議をして、住民に必要な活動内容にしていきたい。



町民の関心が大きい「平石山鉦山」



井出美智子 議員

災害弱者・交通弱者対策 どうなる町のバリアフリー

災害弱者対策として

「お助けマップ」作成を計画中

—— 全町一斉防災訓練は危機感がなさすぎる。

岡本参事兼総務防災課長

区長、自主防災組織、防災士会の意見を聞き、改善したい。

—— 発災時の災害弱者（要支援者）対策はどうなっているのか。

木村福祉課長

包括支援センターが調査した要介護高齢者情報を台帳に登録している。



「危機感がないでなくて」 防災訓練

その台帳を基に、お助けマップ

の作成を計画している。地域関係者の協力を得ながら、取り組みたい。

—— 地震対策として、感震ブ

レーカー設置費を補助してはどうか。

岡本参事

他の自治体の実施例を調査して検討する。

—— 山田谷川の土砂浚渫^{しゅんせつ}を要望する。

海川建設課長

堆積状況を調査し、流水断面等が確保できていなければ、浚渫する必要はある。

防犯カメラ、道の駅への設置検討

—— 主要幹線道路の出入口付近に、防犯カメラを設置しては。

岡本参事

映像の利用、保管については個人情報保護法等を遵守する必要がある。また設置費や管理費等の検討も必要である。まず道の駅への設置を検討する。

オンデマンドバス

多様な側面から検討

—— 高齢者ドライバーの、アクセル、ブレーキの踏み間違いによる暴走防止装置について、本町の取り組みは。

木村福祉課長

この11月から、県の「高齢者安全運転支援装置」普及促進事業が始まる。本町としてはパンフレット等により同事業の周知に努める。

—— 交通弱者対策として、オ

ンデマンドバスを導入できないか。

岡本参事

徳島バスやタクシー会社と協議（交通会議）が必要となる。財政面でも検討を要する。

「オンデマンドバス」とは

ドアトウドアで運行する乗合いバス。

その他の質問

- 被災地への応援派遣
- 平石山鉱山問題

せと なおいち
瀬戸 直一 議員

防災情報の共有化促進 防災マップは更新したい

全町一斉防災訓練

おおむね順調に終わった

—— 9月1日全町一斉防災訓練の結果と情報共有はどうだったか。

各地区訓練と町役場訓練結果についての情報共有、シンプルな訓

練企画が必要では。

岡本参事兼総務防災課長

全町共通訓練はおおむね順調だった。

町職員の避難所派遣は、時間的な余裕がなくてできなかった。情報を集め調べることも必要。

防災マップ・防災マニュアルなどを参考に更新したい

—— 防災マップ・防災マニュアル・洪水ハザードマップ更新作業の進捗状況は。

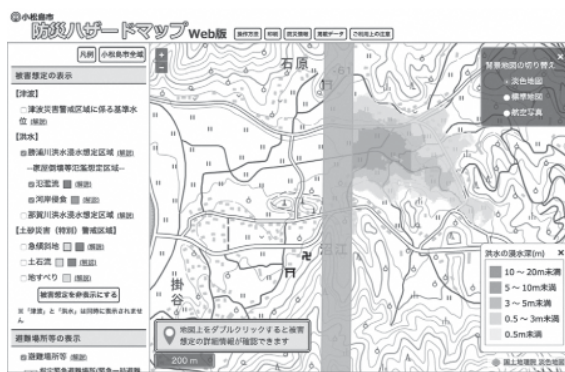
小松島市は石原・沼江地区隣接ですでに公開している。同様の形式で本町でも作ったらどうか。

岡本参事

千年に一度の洪水想定図は、来年度に配布予定。ネット公開も検討する。防災マップ・防災マニュアルは、県や小松島市を参考に更新したい。



防災訓練の様子（中山）



「小松島はできとんでよ」
浸水の危険度がわかるハザードマップ

みかんの出荷

—— 今年は裏年で、前年比70%前後

ゆこう、ユズ」とみかんの生育状況と出荷見込みは。

河野農業振興課長

みかんは裏年回りで、極早生・早生はやや少なく、普通温州は園地間のばらつきが大きい。

J A の出荷予想は、みかんは対前年比70%前後、香酸柑橘は、スダチ120%、ユズ・ゆこうは前年度並みとなっている。

その他の質問

- 鳥獣害被害の発生状況と駆除状況
- 簡易水道事業「経営戦略」
- 町役場からの SNS 発信

あいはら きくお
相原 喜久男 議員

光ケーブルの料金見直し 年度末までに結論を出したい

インターネット料金

今年度末までに方針決定

—— 町民から、「光ケーブルの料金体系見直し」について強い要望がある。昨年3月、「インターネットの利用率は48%」、「サービス体系見直し（新契約）」は平成31年度から可能」との答弁を得ている。

アンケート実施からすでに約2年が経過しようとしている。また光ケーブル運用開始から10数年間、約半数の住民が利用していないサービス（インターネット）の料金を払い続けている。

岡本参事兼総務防災課長

昨年夏、事業者から、3種類の料金案が提示されたが、今年の10月になって実施できなくなったと通告があった。今年度末までに結論を出すよう努力する。

提示された3プラン

- テレビ・電話
- テレビ・電話・インターネット（100メガバイト）
- テレビ・電話・インターネット（1ギガバイト）

防災無線の保守改善

優先順位をつけて取り組みたい

—— 防災無線システムの保守が適正に行われていない。保守点検報告書によると、基地局や中継局という主要設備の不具合が4年間以上放置されている。また複数の子局（屋外スピーカ）が正常に作動していない。毎年200万円の点検費用をかけているが、無駄になっている。

岡本参事

担当職員の理解が不十分だった。

た。予算の関係もあるので、優先順位をつけて取り組みたい。



「これでは聞こえんワ」防災無線（坂本黄榮）

—— 防災設備の不具合は、放置すべきではない。システム運用の基本的な考え方が間違っている。

また適性を考慮した職員人事が必要ではないか。

岡本参事

防災に関することなので、迅速な対応が必要だと思う。人事面での対応は困難である。

その他の質問

- 地域公共ネットワークの活用
- 防災監視カメラの増設
- 防災用ドローンの導入
- 危険家屋対策の進捗状況
- 小学校の英語教科化対策

せんざい まもる
仙才 守 議員

横瀬橋東側の狭あい部改良 地元と協議して要望活動をする

進展が見られないので

来年度から要望活動をする

野上町長

町長を拝命してから毎年、東部

県土整備局に改良を要望しているが、余り進展は見られない。

野上町長

早急に地元と話し合いの場を持ち、県との協働体制を強化すべきでは。

地元、県議と協議して来年度から要望活動をしていく。

野上町長

かつら創生事業

国の戦略を参考に方針を決める

今年度は5ヶ年計画の最終年度となる。

来年度からの事業計画のスケジュールは。

石木企画交流課長

11月末までに各課で事業の検証

を行い、12月に策定される

国の総合戦略を参考に方針

を決めていく。

野上町長

宅地造成事業は全て

完成し、多くの若者世帯が

入居して成果を上げている。

継続すべきと思うが町長の見解は。

野上町長

効果が上がっていると感じており続けていきたいが、民間との協働も含め研究していく。

阿南方面の通学タクシー

は、高校進学を選択肢を増やす上で役立っている。今後の見通しは。

市川教育長

普通科の学区制の見直しが進んでいるので、阿南方面だけに限らず、高校への通学支援を考え

ていきたい。

野上町長



「危のうてしやあない」狭あい部



しとみ こういち
筧 公一 議員

スポーツ専門の協力隊員 要請があれば採用検討

スポーツ協力隊、良い提案なので
具体的な要請があれば検討したい

—— スポーツの指導資格を有
する人材を地域おこし協力隊とし
て採用できないか。

笹山教育委員会事務局長

とても良い提案だ。具体的な要
請があれば検討したい。

早期離任の協力隊

事前イメージとの相違などが理由

—— 協力隊員が途中で辞めて
いるが、現状と離任理由は。

石木企画交流課長

平成22年度以降、14人が着任し
たが、最長雇用期間である3年を
待たず離任した隊員が5人いた。
着任時に丁寧な説明を心掛けてい
たが、離任理由として事前のイ
メージと実際の業務内容との相違
などがあった。

現在、企画交流課と農業振興課

で一人ずつ欠員がある。企画交流
課は募集要項を再検討し手続きを
進める。

河野農業振興課長

アグリサポート事業に従事する
隊員への応募があり、12月に面接
をする予定だ。

正木ダム・勝浦川

洪水調節機能は、まだ余裕がある

—— 正木ダムや勝浦川は、ど

れくらいの雨量まで耐え
られるのか。

岡本参事兼総務防災課長

正木ダムは日降水量

544ミリを想定し、洪水調節機
能として流入量毎秒1500tの
うち、650tを貯めることがで
きる。勝浦川は日降水量516ミ
リを想定しているが、ダムも含め
余裕を持った想定値を設定してい
る。

—— 想定外の雨量

になった場合、備蓄
倉庫の設置場所は太
丈夫なのか。

岡本参事

現在は千年に一度の降水量
に対しての洪水浸水区域を想
定しているが、この想定より
も前に備蓄倉庫を整備した。
浸水が想定される地域の備蓄品
は建物の2階や
高い場所への移
動を周知してい
く。

その他の質問

- 鶴林寺線県道供用について
- ふるさと納税について
- 町民祭について

はなふさ かついち
花房 勝一 議員

金比羅堤防の防犯灯 優先順位を決めて今年度中に設置

防犯灯設置は安全安心につながる
今年度中に設置する

—— 金比羅堤防は、中学生の
通学路や町民の健康ウォーキング
に利用されているが、朝夕暗くて
危険である。防犯灯を設置すべき。

岡本参事兼総務防災課長

防犯灯を設置することは、安全
安心につながると考えている。

——いつ設置できるのか。



浚渫中の勝浦川

岡本参事

防犯灯については、町内で要望
が多いため優先順位を決めて、今
年度中に設置する。

金比羅堤防の漏水箇所
直ちに危険な状態ではない

—— 金比羅堤防は法面の下部
に漏水箇所がある。確認は出来て
いるか。

海川建設課長

台風10号接近時に調査し、法尻
(のりじり…法面の最下部)での
漏水を確認した。引き続き適切な
水防活動を行う必要があると考え
ている。

——堤防の安全性は確保でき
ているか。

海川課長

県は堤防の強化対策として根固
め工事、法面の補強工事を行って
いる。また、洪水対策として河床

を掘削し、流水断面を確保してい
るので、直ちに危険な状態では無
いと考えている。

——災害が起きてからでは遅
い。県に対して金比羅堤防強靱化
の要望はしないのか。

海川課長

堤防決壊という大惨事ならな
いよう、県に点検強化を要望してい
く。

訓練にも使える

詳細なハザードマップを作成

——各地区の避難経路を
含む、詳細なハザードマップ
の配布はいつか。

岡本参事

町の地図システムに危険
箇所を明示し、各地区の訓練
にも使用できる詳細地図を作
成する。今年度中に配布した
い。

——不要となり長い間、保管
中の消防自動車はいつ売却するの
か。

岡本参事

オークションに出品し、今年度
内に売却したい。

お え ひ で き
麻植 秀樹 議員

住民に寄り添った医療提供へ 保健センター併設は検討課題

保健センター併設

将来的な検討課題にしたい

地域包括ケアの将来像は。

野上町長

私は勝浦病院に「保健センター」を設置し効果の最大化を図ることが、勝浦町民にとって理想的な医療、福祉、保健の「カタチ」と確認している。町長の目指す勝浦病院を中心とした地域医療や

改築に合わせた保健センターの整備は考えていないが、将来的な検討課題としたい。

病院の経営改善策として地域包括ケア病床を導入し、4月より地域連携室を設置した。成果も上がりつつあり、一つ一つの積み重ねが重要であると考えている。

今後も「かかりつけ医」として住民に寄り添った医療提供に努めたい。

内部的な改革では限界にきている。外部人材の登用や医療コンサルタントの活用などを考えるべきだ。

野上町長

財政や運営面、さらに病院全般にわたる現状を改革するため、必要であれば検討したい。

在宅育児応援クーポン事業
12月に開始に向け準備

当初予算に計上されていた「とくしま在宅育児応援クーポン事業」の開始が遅れている。事業が他町村より遅れている原因と今後のスケジュールは。

木村福祉課長

10月スタートに向け、優先順位をつけながら進めてきたが、消費税にあわせて多くの事業が重なり開始が遅れた。現在、12月開始に向け準備を進めている。

利用できるサービスは任意予防接種（インフルエンザなど）とファミリーサポートセンター事業だが、今後はさらに対象サービスを充実させたい。

その他の質問

- 行財政改革

とくしま在宅育児
応援クーポン事業

特に経済的・心理的に負担が大きいとされる低年齢児の育児を保育所等を利用せずに家庭で行っている保護者に対して、子育て支援サービスに利用できるクーポン券を配布することで、在宅育児家庭の子育て支援サービスの利用支援を行い、負担を軽減することを目的とする事業。

まつだ たかし
松田 貴志 議員



「地域医療を考える会」によるクリスマスコンサート

「コミュニティ」に重要な施設 集会所修繕制度を見直す時期

老朽化が進む集会所

統合補助金を利用し修繕している

—— 現在、町内には災害時の避難所として29カ所が指定されており、内14カ所が地区の集会所である。そのほとんどが老朽化し、修繕や整備が必要である。

町は避難所としての安全性や耐震化など、把握できているのか。



老朽化が進む集会所

岡本参事 県兼総務防災課長

地区の集会所は老朽化が進み、各地区で統合補助金を利用し修繕している。耐震性や安全性の調査はしていない。

—— 集会所を改修・整備する

とき、統合補助金を充てても区負担は高額となり区財政を圧迫する。

集会所は町の施設であり、避難所でもあるので、区に重い負担を強いるこの制度は見直すべきである。

統合補助金とは

地区が実施する集会所の大規模改修に町が補助する制度で、10万円を超える事業費の2分の1を町が負担する。

野上町長

集会所は避難所であり、地区コミュニティの重要な施設である。制度を見直す時期にきている。

恐竜による活性化

県などと連携しながら研究したい

—— 「恐竜による町の活性化」が叫ばれているが、県や町の取り組みは。

笹山教育委員会事務局長

県は今年から大規模な発掘に向けて、重機を入れ、調査を進めている。

町では各課で協議し、若手職員からの提言等を踏まえ取り組んでいく。

先進地の福井県勝山市では、専門の研究者を中心としたチームや体制づくりをしている。町職員だけ

野上町長

では無理があるので、研究者を地域おこし協力隊として採用してはどうか。

県・博物館と連携しながら、活性化に向けて研究していきたい。

その他の質問

- 一斉防災訓練の検証
- 常備消防化に向かって
- 東京五輪に向かって
- 地方創生に向けて
- 県道新浜勝浦線の状況
- 星谷橋の周辺整備

くにきよ いちじ
国清 一治 議員

地域に生きる

ONE ワン・チーム TEAM

元気な勝浦に、もっと活気を。

さかもと元気ネットワーク



会長
内谷信喜さん

どんなグループ

平成28年11月、地域の課題解決を探るため、県主催の「未来ある農山村育成支援事業」のワークショップで出た地域資源活用のアイデアを実行するために結成された。



在住地区に関係なく、設立目的に賛同する者を会員としており、現在の会員数は38人。事業はプロジェクト方式で運営しており、若者が活動の中心で、年配者は支援に回っている。

どんなことしよんで

ひな祭りイベントに併せて開催される、着付けや人力車の体験ができ、和装で坂本おひな街道を楽しめる「さかもと着物まつり」や坂本の地域資源である坂道を活用し、毎年300人以上のエントリーがある「さかもと坂道マラソン」の企画・運営をしています。



今後の展望

坂本地区が今後も続いていくように、そこに繋がる何かを求めて活動を続けます。
また、会員自身も「楽しい」と思いながら活動できることを忘れずに運営していきたい。



さかもと元気ネットワーク フェイスブック
<https://www.facebook.com/sakamotogenkinet/>



さかもと坂道マラソン2018 イベント動画
<https://youtu.be/P3aLBDal1p4>



さかもと着物祭り イベント動画
<https://youtu.be/4xqFLhM-Oka>

町民の「笑顔」募集!

議会広報委員会では、みなさまからの表紙写真を募集しております。テーマは「町民の笑顔」!



詳細は下記 URL または QRコードをチェック!

<https://formok.com/f/1chm9gnl>



(相原)

8月発行の議会だより(第84号)から、なんとといっても防災の重要性が問われた4ヶ月ではなかったかと思えます。
先日の徳島大学・中野教授の「防災・減災キヤラバン講演会」では南海トラフ巨大地震に備え、被害を減らし復旧までの時間を短くする「縮災」が紹介されました。残念ながらこの地震は10、30年の間に必ず発生することと、今できる備えをやっておくしかありません。
勝浦町ではみかんの貯蔵作業の真っ最中で、立川地区では恐竜化石調査も始まり、明るい楽しい年になるよう期待しています。

編集後記

